

福知山市廃棄物処理施設のあり方検討支援業務

仕 様 書

福 知 山 市

第1 一般仕様

1 業務名

福知山市廃棄物処理施設のあり方検討支援業務

2 業務の目的

本市のごみ焼却施設は平成12年度に稼働を開始し、平成25から28年度には基幹的設備改良を行い、令和7年度で経過年数が26年となる。また、リサイクルプラザは平成15年度に稼働開始しており、経過年数23年となる。

このため、本市ごみ処理施設の今後の整備及び運営について、施設の基幹的改良による延命化効果と適正規模による施設更新効果に係るLCC等を比較し今後のごみ処理施設のあり方の検討を行う。

3 履行場所

福知山市 牧 地内

4 履行期間

契約締結日から令和9年2月26日まで

5 適用範囲

本仕様書は、福知山市廃棄物処理施設のあり方検討支援業務に適用する。また、本仕様書は、本業務を受託したもの（以下「受注者」という。）が遵守すべき主要な事項を示したものであり、契約書に定めるもののほか、本仕様書に基づき業務を行うものとする。

6 関係法令の遵守

受注者は、本業務の履行にあたり、関係する法令、条例、規則、細則、基準等に従うものとする。

7 資料の貸与

福知山市（以下「本市」という。）は、業務の遂行上必要な資料で、本市が所有している提供可能な資料について貸与する。この場合、受注者は業務が完了したときは速やかに返却するものとする。

8 業務の指示及び監督

受注者は、本業務の実施にあたり、当該契約に基づき本市と密接な連絡を取り、その指示に従わなければならない。

また、本仕様書の解釈に疑義が生じたとき、並びに仕様書に明記されていない事項について判断が必要なときは、本市と事前に協議し、その指示に従わなければならない。

9 業務の実施

受注者は、業務を実施するにあたり、本市の意図及び目的を十分理解し、適切な人員を配置して、正確・丁寧に行うものとする。

10 疑義の解決

本仕様書に定めのない事項や疑義が生じた場合、速やかに本市と協議の上決定するものとする。

11 打合せ協議及び記録簿の作成

受注者は、必要に応じて本市と打合せや協議を行い、終了後は記録簿を作成の上、概ね7日以内に本市に提出し確認を受けるものとする。

なお、打合せは各年度で初回、中間（4回程度）、完了時の計6回程度とする。

中間打合せについては、オンライン実施も可とする。

12 業務実施計画書の提出

受注者は、契約締結後遅滞なく、本市と協議の上、本仕様書及び公募型プロポーザル方式による提案に基づいた業務の具体的な実施計画書（様式任意）を作成し、提出するものとする。

13 成果品

各年度で以下に示す成果品を作成し納品する。

(1) 令和7年度

- ア 福知山市廃棄物処理施設のあり方に係るサウンディング型市場調査
実施報告書 2部
- イ 打合せ記録簿 1部
- ウ 上記電子データ 一式

※ 電子データはCD-ROM (word または excel 形式) で納品すること。

(2) 令和8年度

- ア 福知山市廃棄物処理施設のあり方検討結果報告書 2部
- イ 打合せ記録簿 1部
- ウ 上記電子データ 一式

※ 電子データはCD-ROM (word または excel 形式) で納品すること。

14 成果品の帰属

本業務の成果品はすべて本市に帰属するものとする。

15 秘密保持

受注者は、業務の遂行上知りえた秘密事項を第三者に漏らしてはならない。

16 その他

- (1) 本業務について、仕様書に明示されていない事項でも、その履行上当然必要な事項については、受注者が責任をもって対応すること。
- (2) 受注者は本業務の目的を達成するために、本業務委託の進捗状況については市に適宜連絡し、誠実に業務を履行すること。
- (3) 受注者は、業務の全部または主たる部分を一括して第三者に再委託してはならない。
- (4) 本業務仕様に記載されているすべての作業について、市に対し、別途費用を請求することはできない。

ただし、仕様書の変更等による追加費用については、別途協議を行うこととする。

第2 特記仕様

1 業務の対象施設

福知山市環境パークはごみ焼却施設、資源化・破碎施設（リサイクルプラザ）、粗大ごみ処理施設、最終処分場が一体的に整備された施設となっており、本業務は、環境パーク内に存するすべての施設を対象とし、今後の整備及び運営について分析・検討を行う。

なお、令和8年度から、プラスチック使用製品廃棄物の再商品化の取組に係る中間処理施設の整備に別途着手する見込みであり、プラスチック使用製品廃棄物中間処理施設についても対象とする。（市から整備等の状況について情報提供を行う。）

施設名		所在地
福知山市環境パーク		福知山市字牧 285 番地
施設内用途		設備名
中間処理施設		
焼却施設		ごみ焼却施設
資源化・破碎施設		リサイクルプラザ
粗大ごみ処理施設		木材処理施設
		粗大ごみ処理施設
最終処分地施設		
埋立処分場（浸出水処理施設を含む）		不燃物埋立処分場（第Ⅰ期）
		不燃物埋立処分場（第Ⅱ期）
		不燃物埋立処分場（第Ⅲ期）

2 業務内容（※【 】内に記載の年度は業務実施年度を示す。）

（1）基本的事項の整理

① ごみ処理等の現状把握【令和7年度】

市のごみ排出・処理の実績等を整理する。

② 施設状況の把握【令和7年度】

福知山市環境パークにおける施設機能、これまでの修繕状況を把握し、その運営に要している人員数、経費等を整理する。また、それらの結果を分析し課題を抽出する。

③ 計画処理量の設定【令和7年度】

市が別途策定する一般廃棄物処理基本計画の将来予測値を参考に、計画処理量（処理委託量）を設定する。

④ 事業手法の整理【令和7年度】

公設公営、DB0（基幹改良 DB0 含む）、PFI 等、市の事業手法について、他市

町村の事例等を踏まえて比較整理する。

(2) 廃棄物処理施設のあり方検討

① 今後の廃棄物処理のあり方整理【令和7年度】

市の今後の廃棄物処理のあり方として考えられるケースについて、他の事例等を調査し、網羅的に抽出・整理する。

新施設の整備を想定した場合の施設規模やごみ処理方式についても調査を行うこと。

② サウンディング型市場調査の実施【令和7年度】

(2) ①で抽出・整理したケースから本市環境パークの状況に適したものに絞り込むため、民間事業者の募集に必要な資料を作成してサウンディング型市場調査を実施し、民間事業者からの提案内容を取りまとめる。

この業務に関して、サウンディング型市場調査の実施体制（サウンディング委員の体制（案）や聞き取り事項等）について提案すること。なお、外部有識者が参画する場合の報酬等については受注者にて対応すること。

③ 概算事業費の比較・検討【令和8年度】

(2) ②で徴収した調査結果や見積等を基に今後の廃棄物処理のあり方として採用の可能性があるケースについて、イニシャルコスト、ランニングコストを含めたライフサイクルコストの算出及び財源の内訳（交付金、起債、自主財源等）を試算した上で、定性面を含め比較検討し、市に最も適したケースを選定する。

取りまとめに際しては、受注者の専門的知見から比較検討を行うこととし、その手法について提案を行うこと。

(3) 廃棄物処理施設整備方針（案）の作成【令和8年度】

(2) ③で市に最も適したケースとして選定したケースについて、必要に応じて追加のメーカーヒアリング等を行い、次のアからケの事項について検討・整理し、廃棄物処理方針（案）を作成する。なお、検討に際しては、交付金の活用を考慮した上で、適用条件及び課題を整理する。

ア 設計諸元

イ 処理方式等

ウ 施設規模

エ 事業手法

- オ 建設候補地
- カ 施設配置
- キ 事業スケジュール（案）
- ク 概算事業費
- ケ 今後の検討課題等

（４）その他

① 周辺自治体等の状況調査（広域化に係る検討含む）【令和７～８年度】

市周辺の自治体のごみ処理施設の稼働状況や民間のごみ処理施設の稼働状況を調査し、広域化や民間委託の可能性等について調査する。

② 関係会議支援【令和７～８年度】

今後の施設整備方針に係る検討業務であることから、市内部での情報共有会議を複数回（契約期間中で２～３回程度）実施することとしているため、当該会議の運営を支援する。

３ 本業務のスケジュール（予定）

	R 7 年度						R 8 年度										
	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
(1)基本的事項の整理																	
①ごみ処理等の現状把握	→																
②施設状況の把握	→	→															
③計画処理量の設定	→	→															
④事業手法の整理	→	→	→														
(2)廃棄物処理施設のあり方検討																	
①今後の廃棄物処理のあり方整理	→	→															
②サウンディング型市場調査の実施	→	→	→	→	→	→											
③概算事業費の比較・検討							→	→	→	→	→						
(3)廃棄物処理施設整備方針（案）の作成											→	→	→	→	→		
(4)その他																	
①周辺自治体等の状況調査	→	→	→	→	→	→	→	→									
②関係会議支援	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→

【参考資料】廃棄物処理施設の概要

●ごみ焼却施設の概要

竣工年月	平成 12 年 3 月
敷地面積	28,600 m ²
建築面積	工場棟延床面積：3,966.9 m ² 管理棟延床面積：75 m ²
処理方式	全連続燃焼式
処理能力	150 t / 日 (75 t / 24h × 2 炉)

●木材処理施設の概要

竣工年月	平成 15 年 3 月
処理方式	二軸式破碎処理 + 機械選別処理
処理能力	3.0 t / 時間

●リサイクルプラザの概要

竣工年月	平成 15 年 3 月		
敷地面積	約 28,600 m ² （既設処理施設分を含む）		
延床面積	約 7,240 m ² （建築面積 約 3,970 m ² ）		
処理能力	不燃ごみ・粗大ごみ	:	13.5 t / 日
	缶類	:	3.0 t / 日
	プラスチック製容器包装類	:	4.6 t / 日
	ダンボール・新聞・雑誌類等	:	3.9 t / 日

●最終処分場の概要

施設名称		不燃物埋立処分場 (第Ⅰ期)
敷地面積	全体面積	: 58,200m ²
埋立面積	面積	: 31,300m ²
埋立容量	容量	: 455,800m ³
埋立期間	昭和 63 年度～平成 7 年度 ※嵩上工事により、令和 12 年度まで延命化予定	
処理方式	準好気性埋立 (サンドイッチ方式)	
遮水設備	ゴムシート張り	
浸出水処理施設	処理能力	: 95m ³ /日
	処理方式	: 回転円板→凝集沈殿→砂ろ過→活性炭吸着→重金属キレート吸着→滅菌
施設名称		不燃物埋立処分場 (第Ⅱ期)
敷地面積	全体面積	: 65,000m ²
埋立面積	面積	: 42,600m ²
埋立容量	容量	: 694,200m ³
埋立期間	平成 7 年度～平成 21 年度 ※嵩上工事により、令和 12 年度まで延命化予定	
処理方式	準好気性埋立 (サンドイッチ方式)	
遮水設備	全面高密度ポリエチレンシート二重張り	
浸出水処理施設	処理能力	: 105m ³ /日
	処理方式	: 回転円板→凝集沈殿→砂ろ過→活性炭吸着→重金属キレート吸着→滅菌
施設名称		不燃物埋立処分場 (第Ⅲ期)
敷地面積	全体面積	: 33,000m ²
埋立面積	面積	: 14,500m ²
埋立容量	容量	: 135,000m ³
埋立期間	平成 26 年度～令和 10 年度	
処理方式	準好気性埋立 (サンドイッチ方式)	
遮水設備	全面高密度ポリエチレンシート二重張り	
浸出水処理施設	処理能力	: 90m ³ /日
	処理方式	: 沈砂地→調整槽→生物処理→凝集沈殿→砂ろ過→活性炭吸着→キレート樹脂吸着→滅菌

※不燃物埋立処分場 (第Ⅳ期) を現在施工中です。